

## 開かれた学校づくりをめざして

### I 研究の内容

#### 1 研究の方法

##### (1) 研究の柱

- ・学校と地域・保護者との関わり方・連携の方策について
- ・学校・子どもたちが地域の人々や保護者とのつながりを生み出す実践
- ・研究の成果の共有（情報の発信も視野に入れながら）

- (2) 各部員が、各校の実践（子どもたちの変容の様子、問題点、悩み等）を報告し、それについて情報交換・協議する。夏季学習会では講師を招き、郷土に関わる施設等の隣地研修を通して、研究を深める。常任講師の先生方に、常時ご助言・ご指導をいただく。

- (3) 保護者・地域との連携について授業実践を通して研究を深める。

#### 2 実践発表と授業研究

##### (1) 勝沼中学校「地域に根ざした勤労体験学習」の実践発表

- ・農業体験学習，職場体験学習，ぶどうまつりの参加 など

##### (2) 井尻小学校「保護者地域住民を巻きこんでの取組」の実践発表

- ・地域の方をゲストティーチャーに招いた川柳の授業
- ・地域の方とともに創る教育活動（松里音頭の指導，ミシンを使った学習，ころ柿づくり，昔の遊び集会）など

##### (3) 牧丘第一小学校「保護者・地域住民と連携した取組」の実践発表

- ・各学年の取組（生活科昔の遊び教室，総合的な学習）
- ・児童会中心の取組（葉ボタン栽培・配布・販売，子ども祭り） など

##### (4) 大和小学校「保護者・地域と連携した取組」の実践発表

- ・家庭との連携（生活ノートの活用，早寝早起き朝ごはんのアンケート）
- ・保小中の連携 ・太鼓への取組 ・PTA 親子活動 など

##### (5) 八幡小学校「保護者・地域と連携した取組」の実践発表

- ・保護者地域住民を巻きこんでの取組（有価物回収，図書ボランティア，セーフティーパートロール隊）
- ・保小中の連携 ・いきいき教育地域人材活用推進事業の利用 など

##### (6) 夏季学習会……授業案検討

「地域素材についての学習会（栖雲寺・慶徳院）」

- (7) 授業研究 第2学年 生活科 ふしぎたんけん ふれあいたんけん  
～タイムマシンにのって昔の学校へ～

倉田 和美先生（牧丘第一小学校）

ねらい……昔の学校の見学を自分たちで計画し、それに基づいて探検することができる。観察したり、調べたりすることで、自分たちの地域に関心を持ち、人や地域のことにより一層深く気づくことができるようにする。

授業の流れ…グループごと、ゲストティーチャーに質問をし、昔の学校の様子を知る。教えてもらったことを発表し合い、交流させる。最後にゲストティーチャーに児童へのメッセージを話していただく。

児童の様子…ゲストティーチャーの話に興味深く聞いたり、メモを取ったりしていた。聞いた話を現在の学校と比べて驚いていた。

## II 成果と課題

### 1 成果として

○各校の実践発表を通して、様々な連携のあり方について情報交換をし、それぞれの成果と課題について理解を深めることができた。自校の実践に結びつけたり生かしたりすることにつながった。また今年は中学校の先生にも加わっていただいたことで、研究に広がりをもつことができた。

○夏季学習会では、講師を招き地域素材についての学習会を行った。大和地区の寺院の見学を通し、大和地区だけでなく甲州市や山梨県の歴史や文化財などについても詳しく学習することができた。

○牧丘・三富地区の小学校統廃合の機会に、学校の歴史を振り返る授業をしたこと、またその講師を地域在住の方になってもらったことが、絶妙のタイミングと最高の条件で、素晴らしい実践となった。地域の方や父母・祖父母と関わる活動を取り入れた学習や、ゲストティーチャーを招いての授業は、本部会のテーマを具現化することにつながった。

○地域のことについて、地域の方や保護者と共に学ぶことの意義を再確認できた。地域に目を向け、教材化していくことは手間がかかるが大事なことだということがわかった。

### 2 課題として

○地域の教育力を継続的に取り入れていけるような取組・手だてを考えていきたい。（生活科の学習・教科における学習ボランティア・安心安全のためのボランティアなど）

## III 成果物

○学習指導案・学習ワークシート ○各校の実践レポート

（部長 飯室 美華）